

PLUS KAGA 加賀波コーヒープロジェクト
第3回企画書「加賀のカフェ文化を知る(仮)」
慶應義塾大学法学部政治学科2年生 南 昇吾

加賀波コーヒーとは：

加賀市内には歴史ある喫茶店から、個性あふれるカフェ、文化を残すための茶屋な

ど多くのお店がある。そこでサードウェーブの流行りに乗るのではなく、加賀市でしか体験出来ない加賀のカフェ文化(加賀ウェーブ)を広めようという活動をしている。現在は、数ヶ月に一度加賀市内でコーヒーを提供し、加賀のカフェ文化を広めるイベントを企画している。

第3回企画概要：

加賀市にあるカフェと共に、今まで加賀市内に存在した喫茶店や茶屋も取り上げ、あらゆる観点からユニークに分析する写真展と展示会を開く。

企画の目的：

- ・日本の1つの地域に注目し、時代背景と共に変化してきたカフェを分析することで、今後大切となるカフェを考察する。
- ・地元の方々が考えたこともない観点から、加賀市内のカフェを分析すること。そしてイベントを通して面白かったな、また加賀波コーヒーのイベントに行きたいなとおもっていただくこと。

企画の詳細：

加賀市には様々なカフェや喫茶店がありますが、
今あるカフェが、全てのカフェ、ということではありません。

江戸後期には掛け茶屋が北国街道沿いに広まりました。
戦後は急速に喫茶店が山代と山中の温泉街中心に広まりました。
現代では、カフェや昔の文化を残すための茶屋が復活しました。
未来には、どのようなお店が生まれて、どんな役割を果たすのでしょうか。

今までの加賀市の茶店、喫茶店、カフェ。この全てを探し、3つの観点から分析した展示会を開きます。

1. 「昭和時代の加賀の喫茶店やカフェに帰る写真展」

加賀市の茶店の写真や絵は残っていないそうですが、当時盛んだった喫茶店の写真はあるかもしれません。昔の写真を並べて、ちょっと気持ちが昔にタイムスリップできるような空間を作ります、また、今存在する加賀市のカフェの色々なモノを撮影し、写真展のようにする空間も作ります。

2. 「どのように加賀にカフェが生まれ、変化してきたのか。」

時代の流れとともに、飲食店の役割が変化してきました。移動手段が”徒歩”であった時代には街道沿いに休憩所としての茶屋が広まり、団子や串をほおぼることができました。戦後は西洋の文化の流入と日本の発展と共に喫茶店が増えていき、人がマスターやママに会いに行く場が生まれました。現代は、スターバックスの日本進出とサードウェーブが盛んになり、ハンドドリップで淹れるコーヒーのお店ができました。今までの加賀市の茶店、喫茶店、カフェを年表にして、時代背景と共に「変化図」を作ります。

3. 「カフェを解剖して、心臓部を探る」

人は何を持ってその空間を「カフェ」と呼ぶのでしょうか。何があったら茶屋になり、何があったら喫茶店になり、何があったらカフェになるのか。また、その全ての「共通点」とは何か。役割こそは茶店、喫茶店、カフェで違えど、どの時代にも共通して存在するお店の「心臓」部分が隠されているはずです。

写真展、変化図、解剖の3つの観点から今までの加賀市のカフェを見ることで、今後生まれるカフェの重要性と役割を考えて行きたいと思います。

この展示会に、お客さんに加賀市のコーヒーを配り、少しでもコーヒーを知って頂く機会になればなと思います。